

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 商 学部

研究(代表)者名 : 矢野 泉

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2022 年 2 月 21 日	
研究課題	【ひろみら領域研究】 地方都市における卸売市場の運営形態と流通機能の関係 ー改正卸売市場法下の業務規程の比較を中心にー				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 矢野 泉	商学部・教授	研究の計画、遂行、とりまとめ等全般		
	(研究分担者) なし				
(代表者・分担者計 1 名)					
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 本研究は、全国的にその運営が見直されている卸売市場について設置者及び運営者の違いとその違いに伴う取引ルール等の相違に注目し、それらが卸売市場の流通機能に与える影響を明らかに目的としたものである。申請時は、全国卸売市場の現地調査と卸売会社経営資料収集等により研究を遂行する予定であったが、新型コロナ感染拡大の影響により 1 年目に課題と研究手法の変更を行った。1 年目の文研研究とオンライン調査結果をふまえ、2 年目である 2021 年度は全国にある 65 中央卸売市場 (40 開設自治体) の業務条例及び業務条例施行規則等の比較により、改正卸売市場法による取引ルールの変更等を検証した。 2021 年度の研究成果は以下の 3 点である。まず第 1 に、2020 年 6 月 21 日の改正卸売市場法施行にともない各中央卸売市場開設者が制定した新業務条例 (規程) と新業務条例 (規程) 施行規則における条例・規則内容を整理し、卸売業者・仲卸業者・売買参加者・買出人・関連事業者の許認可ルールと業務定義の比較を行った。その結果、卸・仲卸の許認可方法として大きく業務許可と施設使用許可の 2 方法に分かれていること、またその併用や開設者と事業者の協定といった形がとられている例外的な市場があることを明らかにした。第 2 に、上記許認可方法と取引ルールの規制の度合いについて一定の法則性が見いだせることを明らかにした (詳細については成果公表前のため記述しない)。第 3 に、許認可や取引のルールの違いがみられたものの、今回の改正卸売市場法により、卸売業者の商業資本としての性格が委託売買資本から商品買取資本的なものに変質していること、卸売業者と仲卸業者の制度的な垣根がほぼなくなっていることから、流通機能上共通の市場における競争関係にあることを明らかにした。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	①卸売市場政策の変質と今後の卸売市場 ②改定卸売市場法下の業務規程の比較分析			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	①『農政の展開と食料・農業市場』 ②『農業市場研究』	①筑波書房 ②日本農業市場学会	①2022 年 7 月 (予定) ②2022 年 10 月投稿 (予定)		
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 :

人文学部

研究(代表)者名 :

大澤真也

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日 2022 年 2 月 28 日	
研究課題	【ひろみら領域研究】 日本人英語学習者の語用論的能力測定のための尺度および教材開発			
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担	
	氏 名	学部・職名		
	(研究代表者) 大澤真也	人文学部・教授	研究の統括および教材開発	
	(研究分担者) Ronald James 中西大輔	人文学部・教授 健康科学部・教授	尺度・教材開発 尺度の開発および実態調査	
	大木七帆	北海道科学大学・助教	尺度の開発および実態調査	
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 2021 年度に引き続き、移動して打ち合わせを行うことが困難な状況であったため、Web 会議システムやメールを活用して研究打ち合わせを行った。2021 年 6 月には予備調査の結果を国際学会 17th International Pragmatics Conference in Switzerland において発表した。また 2021 年秋に追加で行った調査データの収集も完了している。予定では 2 月下旬に対面でデータの評価作業を行う予定にしていたが、実施が困難な状況であるため 2022 年 3 月以降に実施を予定している。また 2022 年 2 月下旬に開催された外国語教育メディア学会メソドロロジー研究部会において大木氏と共同で「日本人英語学習者の語用論的能力測定のための尺度および教材開発」のタイトルで口頭発表を行い、聴衆から数多くのフィードバックを得ることができた。 なお業務委託費を利用して「映画における発話行為コーパス」を開発した。これは映画のセリフに発話行為（言語の機能）をタグ付けすることで、映画のセリフの中でどのような英語表現を用いて発話行為が遂行されているかを明らかにするためのシステムである。このシステムを利用し、2022 年度以降はさらにコーパスに含まれるデータを充実させ、教材開発および研究成果発表へとつなげていきたい。			
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	日本人英語学習者の語用論的能力測定のための尺度および教材開発		
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考
	メソドロロジー研究部会 2021 年度第 3 回研究大会	外国語教育メディア学会	2022 年 2 月	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ※規程に則り、調査研究費による成果発表であること及び交付年度を明記すること ☒ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)				

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属：商 学 部

研究(代表)者名：川 瀬 正 樹

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2022 年 2 月 28 日	
研究課題	【ひろみら領域研究】 新型コロナウイルスがもたらした社会経済的諸問題に関する研究				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 川瀬正樹	商学部・教授	全体総括、GIS を用いたコロナ禍前後の地域分析		
	(研究分担者) 橘 洋介	商学部・准教授	コロナ禍以降の交通事業の抱える課題についての分析		
	川原直毅	商学部・教授	コロナ禍の新たなライフスタイルについての分析		
組	(代表者・分担者計 3 名)				
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 GIS を用いた地域分析では、今年度はコロナ禍前のインバウンドデータとロケーションデータ、統計データを購入し、想定以上に膨大だったデータの加工・分析を行っている。コロナ禍前後を比較するには、次年度の予算でコロナ後のデータを購入して比較しなければならないが、新型コロナの収束が見通せない中、いつのデータと比較すべきか検討中である。 交通分野では、今年度はヒアリングが困難だったため文献調査を中心に行った。鉄道では輸送人員の減少に伴い不採算路線の整理縮小の動きが活発化する一方で、with コロナにおける多角化の方策に展開が見られた。航空事業では規模を縮小して需要の回復を待つ姿勢が継続しているが、当面、需要の大きな回復は見込めず厳しい状態が継続している。物流では巣ごもり需要で宅配が急増し人員不足が生じている一方で、その他の企業間物流は大幅な需要減に直面し、倒産件数が急速に増加している。次年度はヒアリングを実施して、より詳細を探ることとする。 ライフスタイルの分析では、11 月に東京銀座、新宿伊勢丹本店、アウトレットに赴き、衣服についてコロナ禍のトレンドの定点観測を行った。1 月には名古屋の中心部・栄地区の松坂屋、三越、JR 高島屋の婦人服、紳士服、カジュアル衣料品を調査した。11 月は秋冬物が混在していたが、全般的に黒、グレーなどの配色にショートブーツが多く散見された。比較的コロナの感染拡大が抑えられた時期でもあり、好天にも恵まれ大都市部は流行が早かった。一方、名古屋では既に冬物バーゲンが年末より開催され、黒のダウンコートにスニーカー、レディースはロングスカート派が圧倒的にショートブーツ、ダウンジャケット派はジーンズにこちらもスニーカーが目立った。ブランドではカナダダース、ノースフェイス、ユニクロが目に残った。広島のコロナの感染拡大の勢いが止まらない中、名古屋の人流も 3 連休とあってかなり多かった。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	新型コロナウイルスがもたらした社会経済的諸問題に関する研究			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	都市地理学 第 19 号	日本都市学会	2024 年 3 月		
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ※規程に則り、調査研究費による成果発表であること及び交付年度を明記すること ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 : 国際コミュニティ学部

研究(代表)者名 : 佐渡紀子

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの 1 年間分		提出年月日	2022 年	3 月	1 日
研究課題	【ひろみら領域研究】 学外学習の波及効果—国際理解をうながすカリキュラムの検証					
研究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担			
	氏 名	学部・職名				
	(研究代表者) 佐渡紀子	国際コミュニティ学部・教授	研究総括、国際安全保障・平和研究の視点からの調査・分析			
	(研究分担者) 矢田部順二 隅田姿 横田和子 (代表者・分担者計 4 名)	国際コミュニティ学部・教授 国際コミュニティ学部・准教授 国際コミュニティ学部・講師	国際関係史の視点からの調査・研究 国際開発教育の視点からの調査・分析、教育効果の分析 国際共通語、異文化間能力の視点からの調査・分析			
今年度の研究成果要旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 今年度は研究計画の内容に多少の変更があったことにより、やや遅れているものの、研究目的である体験実践の波及効果を明らかにするうえで必要な下準備をすることができた。また、具体的な成果物として、学会での口頭発表 1 本がある。 研究序盤では、学外学習が専門教育（具体的には国際関係史、平和学、国際共通語、国際開発）に及ぼす効果についての先行研究の収集と整理を行い、それらの研究蓄積が非常に浅いことを確認した。そして、基礎知識として、過去 3 年間の異文化間能力についての調査データを使い、本学部において体験実践を履修した学生の異文化間能力について分析し、それが確実に向上していることを実証し、確認した。その分析の基盤は「異文化間能力 Can-Do による学生の意識調査：国際教育カリキュラム検証への示唆」『広島修大論集』第 61 巻第 2 号（2021 年 2 月）に示されたものである。2021 年度には関連する調査結果を「FREPA/CARAP を援用した自己評価調査からみえてくるもの：教育的示唆」の題目で口頭発表を行い、関連分野の専門家の意見を仰いだ。 当初の研究計画では、過去 3 年間の異文化能力データに履修データ、学外学習の有無データ、留学体験データを統合する予定であったが、その前にオンライン化に伴う効果の検証が必要との判断となり、同データを用いて、オンライン化の効果についての検証を行った。この分析結果は来年度に「オンラインでの国際教育の異文化間能力への効果」の題目で、関連学会での発表を目指している。さらに、アンケート票には 3 つの分析視点（歴史的思考、社会構造への理解、開発学的思考）に関わる質問項目を追加する予定であったが、先行文献の調査結果およびオンラインでの体験実践による効果の不透明さから、想定以外の変数が存在する可能性が出てきたため、アンケート票作成の前にインタビュー調査を行い、仮説生成を行うこととした。インタビュー調査は現在実施中であり 3 月 23 日までに終了する。					
成果 発表 予定	発表論文題目					
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備考		
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ※規程に則り、調査研究費による成果発表であること及び交付年度を明記すること ☐ 上記の通り成果発表を 行う ・ 行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)						

2021 年度 調査研究活動報告書

広島修道大学ひろしま未来協創センター長 殿

研究(代表)者所属 :

法学部

研究(代表)者名 :

宮内 彩希

下記のとおり今年度の調査研究費による調査研究が終了しましたので、ここに報告いたします。

当該研究期間	2021 年 10 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの半年分		提出年月日	2022 年 2 月 24 日	
研究課題	【ひろみら特別研究】 一次史料を通して見た植民地朝鮮の日常 ― 巫俗人団体「崇神人組合」の活動実態を中心に				
研 究 組 織	研究代表者及び研究分担者		役 割 分 担		
	氏 名	学部・職名			
	(研究代表者) 宮内 彩希	法学部・助教	研究全般の遂行		
	(研究分担者) なし				
	(代表者・分担者計 1 名)				
今 年 度 の 研 究 成 果 要 旨	※要旨の文字数は 600～800 字程度でお願いします。 研究計画申請時においては、「<u>裁判資料</u>を通して見た植民地朝鮮の日常 ― 巫俗人団体「崇神人組合」の活動実態を中心に」という課題を設定し、韓国に保存されている植民地期の裁判資料を調査する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で上記課題への変更を行い、まずは国内の関連史資料収集とデータベース公開されている史資料の収集・分析を遂行することとした。 本研究は、植民地朝鮮において巫俗団体として活動していた「崇神人組合」の活動実態を明らかにすることを目的とし、先行研究では着目されてこなかった、警察関係資料や裁判資料を用いるという手法が独創的であると言える。今年度の研究成果としては、まず、データベースで公開されている当時の新聞や雑誌を検索・収集し、<u>崇神人組合が関わった「事件」についての記事目録を作成し、事件の概要の分析及び関連法令との突合せを行った。</u>また、当時の朝鮮総督府が作成した記録物や裁判資料が保管されている<u>韓国の国家記録院</u>のデータベースを検索し、<u>関連する可能性がある文書の目録を作成した。</u>次年度以降、この目録を基に所蔵機関へ赴き現地調査を行い、今後更なる分析を進める。(個人研究費による) 上記の内容をまとめた今年度の研究成果は、既に <u>2022 年 2 月に学会発表済み</u>である。当時の巫俗統制政策や「崇神人組合」に詳しい韓国の研究者が指定討論者となってくださり、学術的意義を認めてくださるとともに、他の史料の提示など具体的なアドバイスもいただいた。				
成 果 発 表 予 定	発 表 論 文 題 目	植民地期朝鮮における「事件」を通して見た巫俗人団体「崇神人組合」の活動実態			
	発表誌名 発表学会名	発行所 学会名	発表時期	備 考	
	2022 次世代日韓研究者学術大会	日本国際交流基金ソウル文化センター・ 李熙健韓日交流財団 主催	2022. 2. 19	学会発表	
※研究期間が 1 年未満の場合、本用紙を調査研究完了報告書と兼ねることができます。 (成果発表報告時 研究代表者使用欄) ※規程に則り、調査研究費による成果発表であること及び交付年度を明記すること ☒ 上記の通り成果発表を行った (ひろしま未来協創センター使用欄) ☐ 成果発表資料を受け取った。(年 月 日)					